

【 東京都 】 子宮頸がん検診 平成27年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況>

対象年齢（20歳以上：隔年）	
検査方法（細胞診）	

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		5,737,890	
【東京都調査による対象者率(東京都)：64.2%】			
実際の受診者数		401,748	

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	
左記以外の検査の実施	

<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	
個別に受診勧奨	
過去3年間の受診歴を記録	
精検未受診者への精検受診勧奨	

<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		21.0%	
要精検率	1.4%以下		2.5%	
精検受診率	70%以上		58.6%	
精検未把握率	10%以下		38.3%	
精検未受診率	20%以下		3.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		1.4%	
がん発見率	0.05%以上		0.03%	

※利島村、三宅村は、毎年実施かつ2年連続受診者数未把握のため、受診率の集計から前年度受診者数を除いている
 ※御蔵島村、小笠原村は「細胞診+コルポスコプ等」を実施のため、利島村は要精検者数未把握のため、要精検率以降の集計からは除いている

【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方（偽陽性）の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

<精検受診率>

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

<精検未把握率>

精検未把握率が非常に高く、自治体が行う対策型検診としての事業評価が困難です。『がん検診精度管理向上の手引き』等を参考にして問題点を整理し、精密検査結果の把握方法を検討してください。

